消化器癌に対する経内視鏡的レーザー治療の試み

Endoscopic laser Therapy for G.I. Tract Cancer

柵山年和, 木村 明, 永田 徹, 羽生信義, 吉田 忍
瀬川 豊, 柳沢 暁, 高野 哲, 曾爾一顕,*長尾房大

T. SAKUYAMA, A. KIMURA, T. NAGATA, N. HANYU, S. YOSHIDA,
Y. SEGAWA, S. YANAGISAWA, S. TAKANO, K. SOJI,*F. NAGAO

富士市立中央病院外科, * 東京慈恵会医科大学第2外科

6 Cases of various G.I. tract cancer have been treated with laser irradiation by using an endoscopic Nd-YAG laser equipment. A total of 6 cases, 3 with gastric cancer, 2 with esophageal cancer, one with cancer of bile duct were treated. Post therapeutic evaluation was assessed by subjective symptoms or endoscopic findings including biopsy. About 2 cases with one esophageal and the cancer of bile duct, the therapy was insufficient. But in all the remaining cases, the therapy for the reduction of tumor mass and improving general status judged to be effective. In these cases, our technique is mainly used as palliative procedure to reduce tumor mass. But the possibility still remains for its application by the improvement of the technique and the equipment.

最近, 当病院における消化器癌 6 例について, 経内視鏡下レーザー治療を試みたので, 報告する。

対象と方法: 表 1 に表すように症例は 6 例で, 胃癌 3 例, 食道癌 2 例, 胆管癌 1 例である。Nd-YAG レーザーの熱エネルギーを

利用して癌病巣を凝固焼灼し, その脱落を期待する治療である。

胃癌 3 例は, 上部消化器内視鏡下に行い, 胆管癌については, PTCS を利用

表 1

消化器癌に対する経内視鏡的レーザー治療の試み

病名	性別	年齢	手術歴	治療法	経過
胃癌	男	61	なし	レーザー	経過良好
胃癌	女	63	なし	レーザー	経過良好
胃癌	男	64	なし	レーザー	経過良好
食道癌	男	72	なし	レーザー	経過良好
胆管癌	男	74	なし	レーザー	経過良好
胆管癌	男	71	なし	レーザー	経過良好

した。

次に個々の症例を示す。症例Ⅰ；83才，男性，内視鏡にて胃癌Ⅱc advanced，手術拒否のためレーザー治療を2回行った。写真①上段は，治療前で，胃角小彎側に陥凹性病変がみられる。写真①下段は，治療中で一部レーザーにより焼灼されている。写真②上段は，治療1週後で，レーザー潰瘍が認められる。写真②下段は，治療3週後にて，潰瘍の縮小を認め，生検にては，negativeであった。症例Ⅱ；68才，男性，食道癌にて，前回手術拒否，放射線療法2クールにて著効も1年半後再発，通過障害あり，レーザー治療を施行した。写真③上段は，治療前にて，右側に隆起性病変が認められる。写真③下段は，治療1回後，レーザー焼灼による跡が認められる。写真④上段は，治療3回後狭窄はほとんどなくなり，症状軽快し，食事摂取可能となり，生検にても，negativeであった。写真④下段では，6ヶ月後，再度腫瘤増大し，手術施行，摘出標本では，約35cm長のmain tumorとskip lesionがあり，main tumorは，a₂（外膜面にまで入っている）skip lesionについては，submucosaまでの浸潤であった。症例Ⅲ；66才，男性，残胃癌，食道浸潤通過障害強く，CT上にて腫瘍は，胸部大動脈をまき込んでおり，手術不能と判断，腸瘻造設後レ

ーザー治療を施行した。写真⑤上段は，施行前の内視鏡で，内腔をほぼ閉塞するtumor massが認められた。写真⑤下段は，治療3回後の所見で，狭窄は改善し，全粥まで摂取可能となり約4ヶ月間，経口摂取可能であった。症例Ⅳ；54才，男性，食道静脈瘤破裂による出血にて緊急内視鏡にて硬化療法施行，この時胃角部のⅡcあり，その時点では手術不能と判断し，レーザー治療2回施行した。写真⑥下段は，治療前の胃角部のⅡcで，写真⑥の下段は，治療中，一部レーザーによる焼灼が認められる。写真⑦上段は，治療後レーザー潰瘍に白苔が認められる。その後follow up中生検negativeであったが，6ヶ月後の内視鏡所見では，写真⑦の下段のごとく，胃角部にⅡa様の隆起があり，生検にて，腺癌。この時点で肝機能，腹水のcontrolができ，切除可能と判断し手術施行，写真⑧に示す如く，照射部位は約4mm長のⅡaと縮小した。また病理所見では，随伴するⅡbが見られる多発胃癌であった。結語；症例は，すべて姑息的治療であったが，レーザー治療により，早期に症状の改善ができ，またtumor reductionとしても，再発進行癌に有効である。胆道系の悪性腫瘍に対しても，PTCSを利用しての治療ができるものとする。治療法の改善，工夫により，経内視鏡的レーザー治療の適応をより拡大できる。